



古代にタイムスリップ

■ 写真は、国の史跡に指定されているウサクマイ遺跡群、ウサクマイC遺跡で撮影したものです。遺跡は支笏湖へ続くサイクリングロードの中ほどのふ化場手前、東屋休憩所の対岸にあります。この凹みは、古代人（擦文時代：7～12世紀）の家の跡で、遺跡内の至るところに50個ほどあり、見学することができます。ひと昔前には市内でもこのような凹みがいくつかの場所に残っていました。しかし、近年の開発などにより無くなってしまい、今ではとても珍しい風景となっています。森の中で川のせせらぎや鳥の声を聞きながら、この凹みを見ると、そこに暮らしていた人たちの生活をリアルに想像することができます。

千歳市埋蔵文化財センター 調査係
なおえ やすお
直江 康雄

あ
の
と
き
、
あ
の
場
所

瞬きの点景。

SCENERY OF MOMENT

カメラが光を捉えるほんの一瞬。映り込む人物やものと。千歳ならではの魅力が、残したくなる風景が、そこにある。

広報ちとせ（第1083号）令和2年6月10日発行
■発行：編集／千歳市企画部広報広聴課
〒066-8886 千歳市東雲町2丁目（☎240104）FAX（22）8851
■市のホームページアドレス <https://www.city.chitose.lg.jp/>
■印刷／千歳印刷株式会社



5月15日／市営牧場で撮影

■ 今月の表紙

「さー行け！」と威勢のいい声と優しい眼差しの牧場職員がトラックから牛を降ろします。市内の生産者から預かった牛は、牧場ですくすく育った後、今秋から来春にかけて生産者のもとに戻ります。

■ 幼稚園が休園となり、5歳の息子は、毎日、自宅で絵を描き続けています。言葉が未発達な子どもは、お絵かきという行為を通して自分の心と向き合っていると聞きました。外で思いきり遊べない中でも黙々と手を動かし、置かれている状況を楽しくもつとる姿に、親として広報担当として、いま何ができるのかを考えさせられます。

■ 人への取材が難しいこともあり牧場を訪問。フラインターを覗くと興味を持ってくれたのか、3頭の牛が近づいて来てくれました。酪農家さんは「うちはスバルタでやっているよ」と笑っていました。人がなつこい様子から大事に育てられているんだなと。大きな体に不釣り合いなほど優しいつぶらな瞳にも癒されました。

編集後記

下

■ 視覚に障がいのある方用の「音訳」点訳の広報もあります。詳しくは、☎（27）36021まで。